

## ④ まちづくりと一体的に進める防災拠点型庁舎の整備

受賞機関 竹原市

**キーワード** 防災機能強化、にぎわいの創出、まちづくりと一体となった整備

**全建賞審査委員会の評価ポイント**

遊休施設の有効活用を図りつつ防災拠点型庁舎を整備するに当たり、既存施設改修の制約がある中で合理的な配置計画により防災機能を確保するとともに、1階スペースの複合利用による市民活動の場の創出やユニバーサルデザインの徹底等により、中心市街地のにぎわいの創出につながる多面的な工夫を行った点が評価された。

**1. はじめに**

竹原市では、平成30年7月豪雨及び令和3年7月豪雨の2度の災害により、大規模な土砂災害や浸水被害を経験した。

このように頻発・激甚化する自然災害や加速する人口減少に対応するため、中心市街地のにぎわいの創出と防災力の強化を目的として、まちづくりと一体的に進める防災拠点型庁舎を整備した。

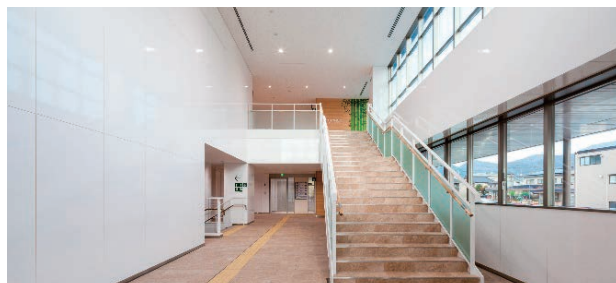


防災拠点型庁舎

**2. 事業の概要**

遊休施設の大規模改修による有効活用に当たっては、改修工事特有の技術的な制約がある中で、駐車場の嵩上げ、エントランスの増築や非常用設備を上層階に設置するなど、必要な対策を講じた。これにより、ライフラインが途絶えても最大72時間は行政機能を維持できる強靱なBCP（事業継続計画）体制を確立した。さらに、災害時の指揮系統を担う部署を3階に配置し、災害対応拠点の機能強化を図った。

施設配置については、1階には議会閉会中に多目的利用が可能なフラット型の議場を整備し、空間の稼働率の向上と新たなにぎわいの創出を両立させるとともに、2階には窓口を集約した。また、色分けしたサインや音声誘導装置を導入し、各階には多目的トイレを設置するなど、徹底したユニバーサルデザインの導入を図り、全ての来庁者が快適かつ円滑に利用できる、質の高いバリアフリー空間を実現した。



浸水対策としてエントランスを増築



多目的に利用できる議場

**3. 事業の成果**

本事業の実施により、災害時における行政機能の維持と、防災拠点としての庁舎機能の強化が図られた。また、議会閉会中は、議場をギャラリー等の多様な用途で利用することで、庁舎は市民活動の拠点となり、「にぎわいの創出」という新たな価値を生み出した。さらに、小学生を対象としたユニバーサルデザイン学習会を開催し、子どもたちが庁舎内の設備を体験しながら地域の課題を主体的に発見する機会を提供した。これにより、未来のまちづくりを担う市民として必要なユニバーサルデザイン意識の醸成に寄与した。

**4. おわりに**

新庁舎は、庁舎活用によるにぎわいの創出を実現し、まちづくりと一体的に進める防災拠点型庁舎として整備された。防災拠点としての機能、行政サービスの提供、市民活動の支援、子どもたちの教育の場等、地域社会を支える多様な役割を果たす「新たなシンボル」となっている。

この庁舎が、市民の安全・安心な暮らしを支える基盤であるとともに、未来を担う子どもたちの学びの場として、持続可能なまちづくりの拠点となり、今後も地域の一層の発展を支え続けていくことが期待される。

賛助会員 (株)安藤・間